

記念館新聞

福岡町立
柳田國男・松岡家記念館
〒679-2204
神崎郡福岡町西田原
1038-12
電話：0790-22-1000



柳田國男・松岡家記念館

☆☆入館案内☆☆
☆開館時間
9時～16時30分
(入館は16時まで)
☆休館日
月曜日、祝日の翌日
12月28日～1月4日
☆入館料
無料

第36回山桃忌 参加申込受付中



第36回山桃忌を8月1日(土)と2日(日)に開催します。

山桃忌では、生誕140年を迎える柳田國男とその兄である井上通泰の祥月にあたる8月に、2人の偉業を偲び、さまざまな催しを行っています。

第1部への参加には事前申し込みが必要です。

詳しくは、福岡町教育委員会 社会教育課(☎22・0560)までお問い合わせください。

第2回 柳田國男検定

第2回柳田國男検定の受験申込期限は、**7月10日(金)**です。
みなさんの申し込みをお待ちしております!!

検定日時:8月2日(日) 11:00～12:00
会場:福岡町文化センター
受験料:1,000円(学生無料/団体割引あり)
公式テキスト:柳田國男読本『福岡と柳田國男』
※問い合わせ・申し込みは当館まで

**締切り
せまる!!**

- 参加者特典
特製バッジともちむぎソフトクリーム券
- 合格者特典
認定証と合格(五角)鉛筆

8月1日(土) **要申込** 先着200名 **参加無料**
第1部 柳田國男の「故郷七十年」
会場:福岡町エルデホール 時間:13:15～17:00
内容:山桃忌式典、江州音頭
基調講演、記念講演、シンポジウム

夜の催し 場所:辻川界限
【民俗学のタベ】18:30～21:30
鈴ノ森神社で行われる祭り。猿まわし、鬼太鼓、餅まきなど。
【竹灯籠のあかり】19:30～21:00
辻川山公園周辺で竹灯籠にあかりが灯ります。
【「山桃忌御膳」のご提供】18:00～20:30
もちむぎのやかたレストランにて。(税込・飲物代別2,000円、40食限定) **ご予約 TEL23-1500**まで。

8月2日(日) **申込不要** **参加無料**
第2部 日本の郷土芸能 農村歌舞伎上演
会場:福岡町エルデホール 時間:13:00～15:00
演目:寿式三番叟(播州歌舞伎クラブ)
傾城阿波鳴門 巡礼歌の段(横仙歌舞伎保存会)

名作著書紹介

故郷七十年を 読む



日本民俗学の出発点といわれる著作を生み出す國男が出会う直前の貴重な記録といえます。

國男は、明治41年(1908)の5月下旬から約3か月を旅行しました。このときに宮崎県東臼杵郡椎葉村を訪れ、生み出された作品が『後狩詞記』です。『故郷七十年』で國男は、その時の余った旅費で『後狩詞記』を50部ほど自費出版したと記しています。

実は國男は兄の井上通泰に、明後日より椎葉村に入ると伝え、た葉書を送っています。



明治41年7月9日付 國男から通泰への葉書(個人蔵)



展示するのは、松岡家の長男である鼎が眠っている千葉県我孫子市布佐に遺された貴重な資料です。
鼎の功績に関する資料をはじめ、上記の「故郷七十年を読む」で紹介したように、弟の井上通泰、柳田國男、松岡静雄、松岡映丘との交流を示す資料があります。
このような資料を一堂に見ることができ、展示となっています。ぜひ、みなさんお越しください。



7月25日(土)から「松岡鼎展」がはじまるよ。くわしくは中面をみてね!

館日記

記念館では、7月25日(土)から11月23日(月・祝)まで、記念展「松岡鼎展」を導いた兄を開催します。

柳田國男・松岡家記念館開館40周年
松岡鼎生誕155年・柳田國男生誕140年記念展

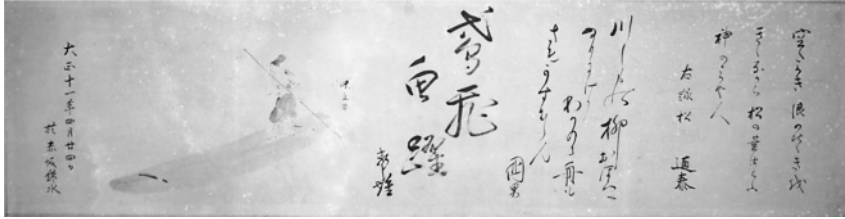
松岡 鼎展

～柳田國男を導いた兄～

会期：平成27年7月25日（土）～11月23日（月・祝）

日本民俗学の父・柳田國男には
幕末・明治・大正・昭和の激動の時代を生き
1つの家族を守りぬいた 兄がいた

入館無料



松岡兄弟寄せ書き（右から井上通泰、柳田國男、松岡静雄、松岡映丘）
（個人蔵）

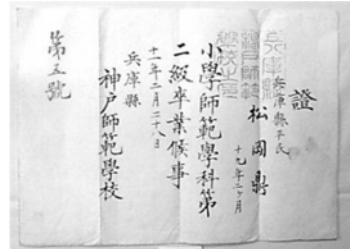
教
育
者

医
者
・
政
治
家



教師をめざして

当時、兵庫県でトップの学校で勉強をして、昌文小学校（現福岡町立田原小学校）の校長先生となりました。



神戸師範学校小学師範学科第2級卒業証書
（個人蔵）

医者をめざして

両親や弟たちに仕送りをしていた鼎は、高価な教科書が買えませんでした。

そこで、鼎は、友人から教科書を借りて、ノートに写して勉強をしました。医科大学を目指しました。



『彪氏外科総論』上と松岡鼎緒言
（当館蔵）

布佐町長になる

鼎は68歳のときに布佐町長を1期つとめました。鼎が計画し、利根川に架けられたのが栄橋でした。

そして、この橋の名前を付けたのは、弟の井上通泰でした。

当初、茨城県と千葉県の県境にある橋であることから、境橋と名付けられました。

ところが、方言で「イ」と「エ」が混同されてしまい、橋の名前は栄橋となりました。



建設中の栄橋

医者になり

27歳のときに医者になった鼎は、我孫子市布佐で凌雲堂医院を開業しました。

鼎は、診療だけでなく、正しい病気の予防対策を伝える活動や組織づくりに取り組みました。



凌雲堂医館章（医院印）
（個人蔵）

兄弟の成長を支えた兄

鼎は親代わりとして、生涯にわたり、弟たちの成長を支えました。

そのことを示すように、兄弟の成長過程をみることができ写真が鼎のもとに遺されています。



國男・輝夫・静雄
（個人蔵）

鼎さんは、本当にいろんな活躍をしたんだよ。

生誕155年を迎える鼎さんについて、知ってみよう。

